

ゆうかり放送委員会提供  
**ゆうかりに乾杯**  
第121回放送の概要 (2017年5月27日放送)

パーソナリティ

たろう

(佃 由晃)

なか

(中嶋邦弘)

かりん

(妹尾優香)

あな

(岸本幸恵)



ミキサー

門ちゃん

(門田成延)

会計

小山俊則

相談役

わたかん

(和田幹司)

**1. ゲストコーナ (1) 神戸海さくら代表 森口智聡さん (83 陽会)**

本日はゲストの森口さんの他、神戸海さくらのメンバーの奥様、上野隆弘さん (75 陽会)、細川明子さん (83 陽会) にもお越し頂いています。

子どもの頃は兵庫区石井町在住、湊山小学校、湊中学、兵庫高校。高校での部活は水泳部。子どもの頃から陸の運動は好きであったが水泳は不得意であった。水泳の授業では同級生の女子に笑顔で手を挙げながら抜かれていた。野球部に入りたかったが、兵庫は野球部に人気があり、レギュラーにはなれないと思い、また勉強との両立は難しいので、上を目指すのはやめて趣味で楽しめる不得意な水泳部を選んだ。冬季の練習は須磨海岸までの 10km を走っていた。スイミングスクールにも通った。神港高校など強いチームの生徒は選手強化コースに入るが、森口さんは大人コースで健康水泳を楽しんでいた。卒業する時には人並みに泳げるようになった。

大阪大学工学部卒業後鹿島建設に就職し、土木建設のうちの土木を担当した。これまでに担当した工事は、笹子トンネル天井版崩落事故で、日本中のトンネルから天井版を撤去することになり、阪神高速神戸長田トンネル工事で 2 年前の 1 月末に 2 週間完全通行止めにして、天井版の撤去とジェットファンの取り付け工事をした。和歌山県の広川風力発電では、これまでの基礎工事だけでなく風車の建て方までの工事を担当した。これまでは建て方の担当は日通であった。風力発電の工事費は殆どが風車の費用で鹿島としては赤字になった。

東日本大震災前は不況のどん底で組織の規模縮小を行い、給料、ボーナスが下がっていた。震災関連工事が発注されるようになると、関西支店の大多数が東北に行って対応した。森口さんは関西の仕事対応で手が離せず東北には行かなかった。

現在の職場は、鹿島・戸田建設共同企業体、阪急淡路JV工事事務所の工事課長として、仕事は淡路駅の高架化工事で、同種の工事はこれまでも経験があり、3度目の工事である。崇禅寺、下新庄、淡路、柴島の4駅が高架になるが10年後に完成予定。高架化工事など鉄道関係工事は大事故を起こしているの、ちょっとした手違いで死亡事故や電車の運行に影響を与えるので、常に事故の事を思い緊張感の中で仕事をしている。人生を失敗しても仕事は失敗はあってはならないとの想いで取り組んでいる。

阪神大震災時は高2で、発生直後は揺れて起きたが、家族と顔を合わせて大震災とは気付かずもう一度寝た。近所の人や家から飛び出しており、森口さん家族もそれに気付き家の外に出た。TVの情報が入り始め、事の重大さを知り、状況確認していた時に親戚の住んでいる湊川で火災が発生し、近づいている事を知り、年寄が多く腰を抜かして動けないということを知り、聞き駆けつけ救出した。その時に初めて事の重大さを実感した。森口さんの奥さんは東京出身で、阪神大震災発生時早朝に小さな地震があり、朝TVをつけると被災地の大変な状況がずっと流れ、その後も連日地震情報がひっきりなしに放送していた。森口さんの家族親戚は全員無事であった。高校生活は休みが何週間か続き、新校舎がひび割れし、学校が避難場所になっていた。通学路は大開通りの陥没したところ、火事の多かった所を通るので景色が完全に変わった所を歩いて学校に行っていた。大事な学校行事の修学旅行は、信州にスキーで行く予定だったが中止になった。神戸高校、長田高校は受験と重なるので修学旅行は取りやめが決まっていたが、兵庫高校は3年生になって勉強より思い出作りが大事として、急に修学旅行を行うことになった。九州ハウステンボスに2泊3日で行った(4月26日~28日)。森口さんは理系の男子クラスのため、花のきれいなハウステンボスに楽しい思い出はなかった。

森口さんは、1995年の東日本大震災を東京で体験された。震災発生時は、日帰りの会議がお台場で開かれており、揺れ始めた時は皆が大騒ぎしていたが、森口さんは余裕で大震災経験者としてこれくらいは地震の内に入らない、絶対大丈夫だからいちいち騒ぐなと言っていたが、そのうち揺れが激しく長くなり、立てなくなり、おもわず阪神を越えていると叫び、被災者の数は阪神を超えと思った。ビル内では余震があると危ないので避難するように言われ、20階を歩いて降り、お台場のひび割れや液状化が生じているなかを避難した。途中で津波の情報が入り高い所に登れと言われたが、TV映像の津波が来るはずはないと皆が言って、帰神するため(帰れないとわかっていたが)品川駅に向かった。避難行動をしている人達は何をしていいのかわからない状態で、駅周辺には何千人もの人が集まっていた。あきらめてホテルを探したが宿泊先はなく、帰る事をあきらめ、会社の管理部を通して寮での宿泊を申し込んだが電話を切られ、30分後に先方から電話があり、大変な状況を知らなかったと言って宿泊出来るようになった。品川から寮のある木場まで歩いて向かった。

## 2. ミュージック:「2月」by インストポップバンド” nica”

トロンボーンという管楽器がメロディーを取るインストポップバンド” nica”のオリジナル曲「RUN」です。甲陽音楽学院の同期で結成したバンドで、トロンボーンは兵庫高校OB、92陽会の井浪直子さんです。

## 3. ゲストコーナー (2)

森口さんが取り組まれている「海さくら」の活動は、毎月第3日曜 10時半~12時半に須磨海岸の清

掃をするものです。これまでに3年9ヶ月の活動をしてきた。海水浴シーズン中、シーズン後は色々なゴミがでてくる。月1回では拾いきれない時もあるが、冬場はゴミが出てこず、最近手伝ってくれる人も多く、45リットルのゴミ袋で5袋の時もある。活動のきっかけは、神戸海さくらの母体に江ノ島で10年間程活動しているグループ「NPO 海さくら」があり、その代表から神戸でもやらないかと声をかけられた。神戸海さくらは最近NPO団体に登録された。江の島と須磨の違いは、江の島は広く、流れ込むゴミの量が非常に多い。須磨は生活ゴミが川から流れ込むことは少なく、海から打ち上げられるゴミも少なく、人の放置ゴミが殆どである。捨てる人に注意喚起ができればきれいになる。江の島の場合どんなに頑張っても完全にきれいにはならないように思われる。

江の島は、住宅街の方から何本かの大きな川経由で流れ込む。街でポイ捨てした煙草の吸殻全てが海に集まっているように感じる。江の島の代表はその状況を皆にわかってもらうために、集めた煙草のフィルターで作ったカヌーに自分が乗り、海まで流れてきたというデモをしたいと言っている。須磨は砂がきれい、一方江の島は黒色のため、須磨を知る者からは衝撃を受ける。森口さんの奥さんは初めて須磨海岸を見た時、なんてきれいな、ここは海外かと思った。

活動の参加者は、当初は知人に声をかけ集まらなければ友達と2人で始めようと思ったが、中学の同級生など思った以上に参加者があり15人でスタートした。地元の小、中の同級生、高校のOBなども参加してもらえるようになった。今は平均的には20人前後、江の島の100人規模に比べ少なく、これからは内輪の人だけでなく、地元の住人、地元以外の人にも活動をしてもらい大勢で取り組みたいと思っている。活動を知ってもらうため、HP (<http://www.k-umisakura.com/>)、facebook ページ (<https://www.facebook.com/kobe.umisakura/>) を作成しているが広がらず、兵庫高校OBのグループ恵縁会で活動を紹介したところ、兵庫高校同窓会(武陽会)のfacebookで取り上げられてから多くのOBから声がかかるようになった。そこから急に広がり、ガールスカウト兵庫11団が参加、FMYFでも紹介出来るようになった。

ゴミ拾いのしんどいイメージをなくすよう、日本一楽しいゴミ拾い(江の島のキャッチフレーズ)を目指し、参加している人が楽しめる、1回参加したら次回も参加をお願いすることもなく、登録することもなく、ふらっと来て参加する、5分だけゴミ拾いする、子ども連れで来て海で遊んで帰る人、三宮に出かける前にヒール、日傘姿でトングでゴミ拾い、ビール飲みながらのゴミ拾いなど、続けることを目標に色々な形で参加してもらえればと思っている。頑張りすぎて皆が負担に思うのではなく、楽しかったと思ってもらうことを一番大切にしている。

ゴミ拾いに必要な経費は、これまでは少ないスタッフが自腹で対応した。兵庫高校OBの上野商店から夏の暑い時に「神戸べっぴんものがたり」の差し入れがあり、スタッフが自分でかき氷を作って参加者に提供したりしている。そのような状況をHPなどで行政(港総局)が見て、新しいゴミ拾いの形として注目されるようになった。港総局は、市では出来ない活動をしていること、楽しい活動でHPをよく更新していること、広報力のある若い団体であること評価され、昨年は市から2件の委託があった。その結果3年間の赤字が解消出来た。これからも市からの信頼を得て、委託業務を受けつつ参加者の増加に対応出来るようにしていきたい。収集したゴミは事前に届出書を提出することで環境局が引き取ってくれる。



須磨水族園とはイルカショーのライブで、ステージに上がり神戸海さくらの活動を紹介した。水族園のイルカを7月中旬～8月末までの海水浴期間中に園外に出す取り組み（ドルフィンコースト）は台風が来た時漂流ゴミでイルカが傷ついたり食べてしまったりするので、ゴミがなくなるまで外に出せない。漂流ゴミは台風から1週間は残るので、1 去年は2回の台風で営業期間が半分になり、赤字で止めることも考えられた。港総局から海さくらに、漂流ゴミの収集について相談があった。海さくらとしては1週間毎日は無理で、今年は海水浴（海開き）期間の土、日、祝日に掃除を計画している。明日5月28日開催の須磨ビーチフェスタで潮干狩りだけで1000人を超える人が参加予定で、終了後のゴミ拾いを海さくらが行うことになっており、市もイベント参加者の手できれいにし帰ることを根付かせたいこと、海さくらを世間に知ってもらいたいことからビーチフェスタの実行委員に選ばれ、海岸清掃のリーダーを任された。イベントにはコウベリーズが参加し、ゴミ拾いも手伝うことになっている。

ゴミを発生させない、持ち帰ってもらう意識付けとして、鎌倉逗子葉山で取り組んで成功したイベント「ゴミゼロナビゲーション」を須磨でも取り組みを計画しており、これはゴミ箱の設置だけでは家庭ゴミの捨て場所になり、ゴミ箱周りもゴミで埋もれてしまうので、ゴミ箱を設置し管理しようとするもので、ゴミ箱分別隊、ゴミ箱アピール隊がついて分別し、自分達の手できれいにすることを呼び掛けるメンバーを募り、会場で声をかけながら分別収集するイベントです。ゴミゼロナビゲーターになることがブランド化されており、ロゴの入ったTシャツを着ていることがカッコよく見られることが目指すところです。ゴミを捨てるのがカッコが悪く、拾う側がカッコいいことがブランド化された姿に須磨を変えていきたい。

今夏から土、日、祝日にゴミゼロナビゲーションをすることで、捨てるのはダメ、ゴミナビゲーションをしているメンバーがカッコいい、皆がこちら側に、分別を誘導する側に入ってほしいと目指している。海さくらだけではメンバー不足のため、他のボランティア団体にも呼び掛けて一緒にやりたい。明日28日はゴミナビゲーションの第1回活動日です。明日11時から会場2か所にゴミ箱を設置し、その前に立ちゴミの分別、収集と呼びかけ、16時から参加者全員で一斉清掃を行う。コウベリーズはライブ会場で清掃参加の呼びかけをする。

砂浜の波打ち際まで車椅子、ベビーカーで入れるようビーチマットを敷く運動を、兵庫高校OBの木戸さんが取り組まれている。クラウドファンディングが先日成立した。明日初めてビーチマットのお披露目がされる。

#### ガールスカウト兵庫11団の神戸海さくら清掃活動参加





#### 4. 地域瓦版

兵庫高校第5回目の Homecoming Day を開催いたします。神戸二中・県四高女・兵庫高校の卒業生、どなたでも参加いただけます。懐かしの母校、久しぶりに足を運んでみませんか？もちろん、一部の時間のぞいていただくのも歓迎です。みなさまお誘いあわせの上、たくさんのご参加をお待ちしております。

開催日：2017年 6月10日（土）

場 所：武陽・ゆ〜かり館 他（兵庫高等学校内）

内 容：◆ 西田真人氏（58 陽会、日本画家、京都市立芸術大学教授）特別講演

◆ 西田氏、美術部現役生のコラボ展

◆ 校内ツアー（旧校舎の名残、各記念碑、新校舎などご案内）

◆ 食堂営業

★ 校内を部活動を眺めながらぶらぶら散策

ゆ〜かりに乾杯の過去の放送音声と文書化した放送概要は、下記URLで視聴いただけます。

<http://yukari.hyogo.jp/>